

(2) 社会

ア 研究主題

「国際社会に主体的に生きる力を育成するための系統的な指導の在り方」

イ 研究主題設定の理由

グローバル化が進み、大量の資本や人、商品などが国境を越えて容易に移動することができる時代が訪れており、自国や他国の文化に対する相互的な理解や、他国の人々との共生が求められている。平成20年1月の中央教育審議会答申において、社会科の改善の基本方針の一つとして、「様々な伝統や文化、宗教についての理解を通して、我が国の国土や歴史に対する愛情を育み、日本人としての自覚をもって国際社会で主体的に生きるとともに、持続可能な社会の実現を目指す」ことなどが示された。また、東京都教育ビジョン（第2次）では、「国際社会の中で、異なる文化や歴史に敬意を払い、様々な人々と共生していこうとする態度や能力を育成するには、我が国の郷土の伝統や文化、歴史についての理解を深め、尊重する態度を身に付けさせる教育を推進する必要がある」と述べられている。これらのことを受け、日本の歴史の学習において、我が国や他国の伝統や文化を理解・認識し、尊重する態度を養うことが、他国の人々と共生する態度や能力の形成につながり、国際社会の中で主体的に生きる力を育むことにつながっていくと考え、本研究主題を設定した。

ウ 研究内容

(7) 身に付けさせたい力

本研究では、国際社会に主体的に生きるために様々な力が必要であるが、中でも自国の伝統や文化についての理解を深めることが重要であると捉え、日本の歴史の学習を通して伝統や文化を広い視野に立って理解・認識する力を育てることを目指した。

(4) 研究仮説

日本の歴史の学習において調べる活動や体験的な活動などを行い、多面的・多角的に考えさせる指導を系統的に行えば、日本人としての自覚をもち、広い視野に立って我が国や他国の伝統や文化について理解・認識する力を育成することができ、国際社会に主体的に生きる力の素地を育成することができるであろう。

エ 1年次の研究

広い視野に立って我が国や他国の伝統や文化について理解・認識する力を育てることを目指すことから、調査は、伝統や文化に関する体験、見学・調査活動、博物館等の活用、伝統や文化のよさなどの理解のほか、社会科の学習を進めていく上での問題解決的な学習や言語活動の状況に関して行った。その結果、主な点として伝統や文化を体験する活動や調査活動、話合いや討論の活動について、更に充実する必要があることが分かった。

オ 2年次の研究

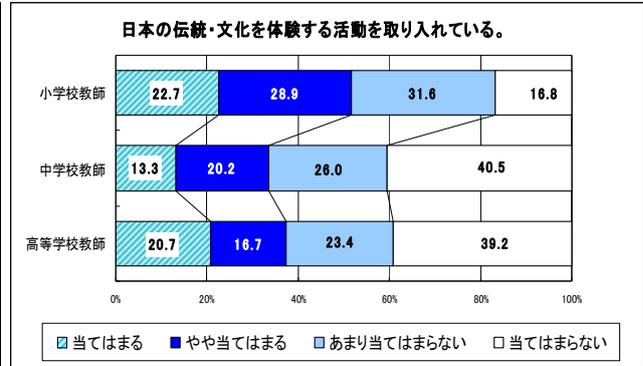
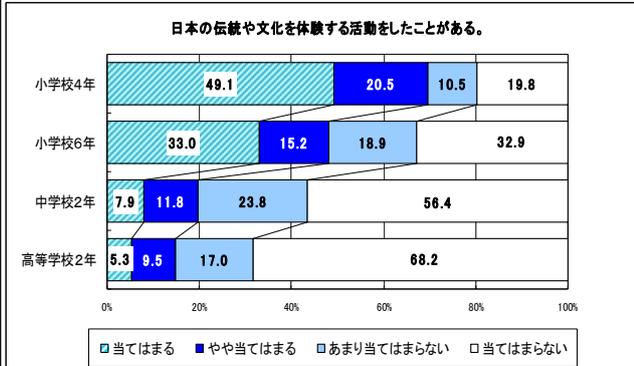
1年次の調査の結果を受け、研究主題に迫るための手だてを検討し、伝統や文化に通じた外部講師の招聘、文化の特色を政治や産業等と関連させて捉えさせること、資料の活用を通してテーマに沿って調べる活動とその交流などを通して、伝統や文化を広い視野に立って理解・認識する力を育てることとした。

カ 1年次の調査結果及び分析・考察

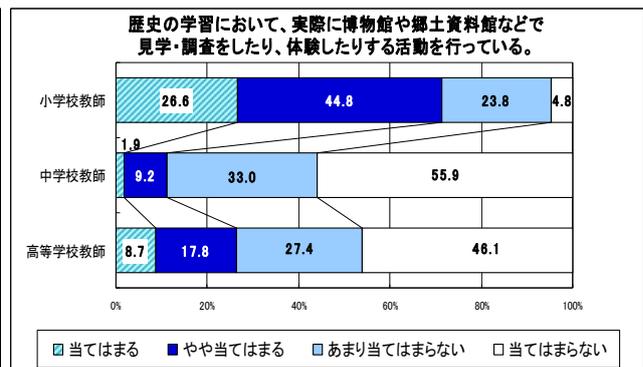
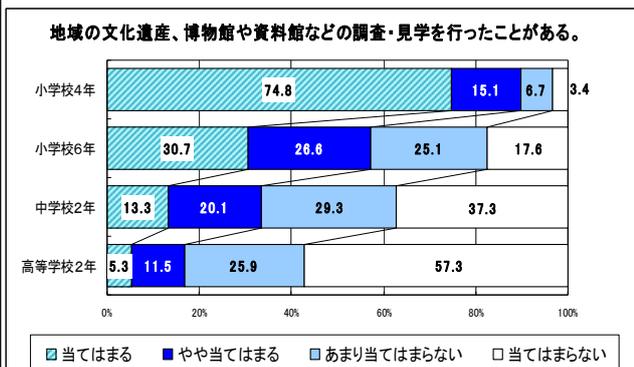
1年次の調査結果から、研究主題に迫るために必要な手だてとして関連性の高いものを以下に記す。

A 日本の伝統や文化について

(a) 日本の伝統や文化を体験する活動の実施状況について



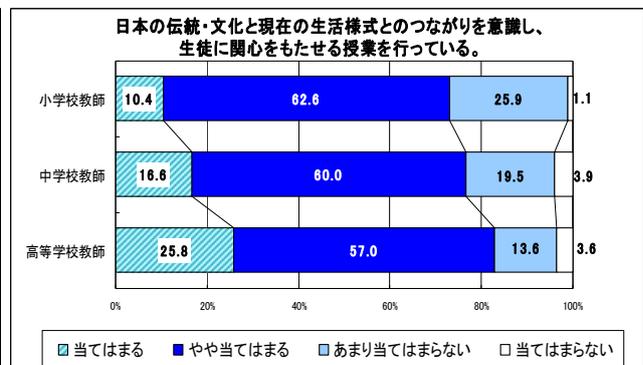
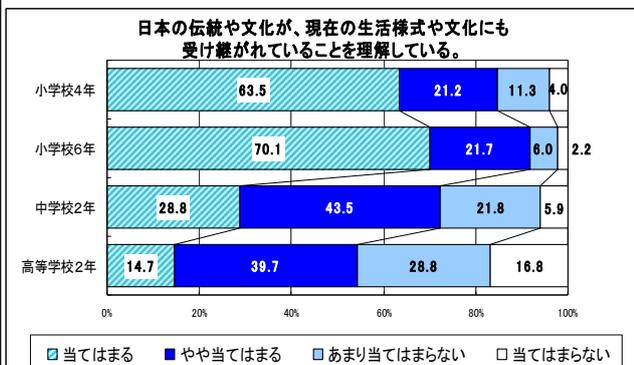
分析 日本の伝統や文化を体験する活動の導入は、小学校段階では一定程度あるものの、中学校・高等学校段階では低い割合となっている。



分析 児童・生徒の意識として、調査・見学の活動は、小学校に比べ中学校・高等学校での実施の割合が低い。

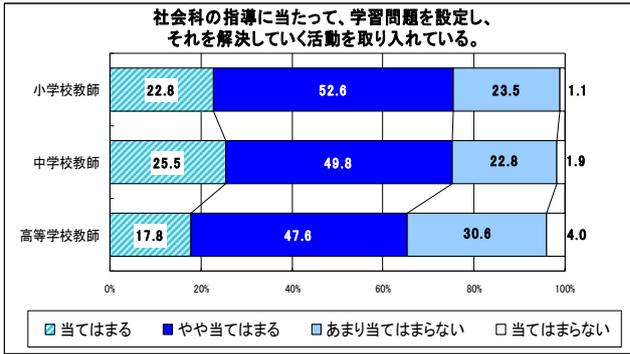
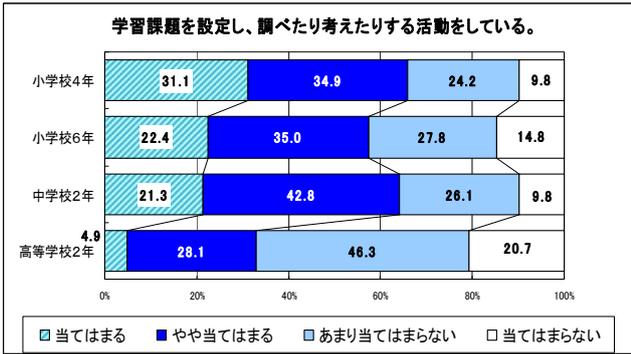
教師の意識も小学校が最も実施している割合が高く、中学校・高等学校は低い傾向が見られる。

(b) 伝統や文化と現在の生活様式との関連に対する児童・生徒の理解と教師の指導について



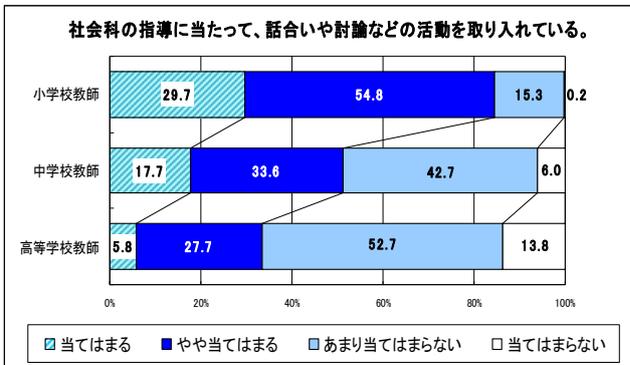
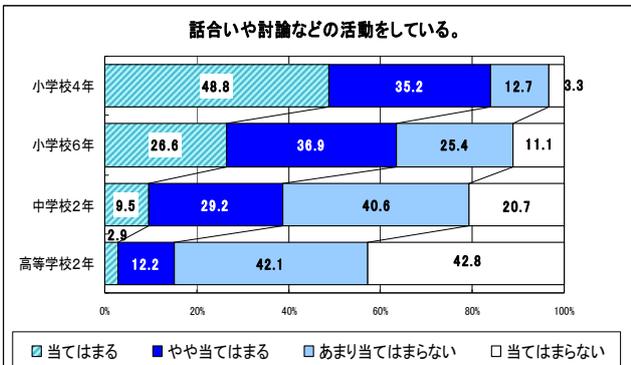
分析 児童・生徒の現在とのつながりの意識は、校種が上がるにしたがって「意識している」と認識している割合が下がっている。教師の指導に対する意識は校種が上がるにしたがって高くなっている。

B 問題解決的な学習に対する児童・生徒の意識と教師の指導について



分析 問題解決的な学習については、児童・生徒と教師との認識に差が見られる。教師は、児童・生徒に比べ問題解決的な学習として授業を実践しているという意識が比較的高い。

C 話し合いや討論などの活動に対する児童・生徒の意識と教師の指導について



分析 児童・生徒、教師ともに話し合いや討論などの活動を実施しているとする割合は、学年が上がるにしたがって減少している。中学校・高等学校では、学習する内容が詳細で多くなることから、話し合いや討論を行う学習活動を行う時間を十分に確保できていない実態がうかがえる。

調査結果からの考察

- 意図的・計画的に、外部講師の活用や見学・調査活動などの体験的な活動を適切に取り入れた学習活動を展開することが必要である。
- 伝統や文化を過去から現在までの時間的つながりから理解・認識する力を身に付けるために、現在との生活様式とのつながりを意識させながら捉えさせる指導の工夫が必要である。
- 学習問題や課題を設定し、児童・生徒が調べたり、考えたりする活動を適切に取り入れ、体験、観察、調査、資料の読み取りなどの場面を授業に設定していく工夫を一層進める必要がある。
- 話し合い活動の場を設定し、討論活動を活発化させることは、社会的なものの見方・考え方を広げたり深めたりし、多面的・多角的に事象を捉えることにつながる。導入での意識付けを工夫するとともに、話し合い、討論などの活動を学習に適切に位置付け、工夫していくことが必要である。

キ 社会科における研究主題に迫るための手だて

本研究では、伝統や文化を広い視野に立って理解・認識する力を「伝統や文化を継承する人の思いを受け止める力」、「歴史上の事象を関係付けて捉える力」、「時間的・空間的なつながりを捉える力」と捉えた。そして、調査の分析・考察から、次のような学習活動を取り入れていくことが大切であると考え、手だてを設定した。

- 伝統や文化の理解を深めるために、伝統や文化を継承している人を招聘し交流すること
- 各時代の文化の特色を政治、産業、社会、対外関係などに関連させて捉えさせること
- 日本の伝統や文化を他国の伝統や文化とのつながりを意識しながら捉えさせること
- 体験や調査のほか、資料を収集・選択するなど活用して問題を解決させること
- 話し合いや説明、討論といった言語活動を充実させ、互いの考えを深め表現させること

＜社会 研究主題に迫るための手だて＞

	手だて	内 容
社会科で設定した手だて	I 伝統や文化を継承する人たちの思いを受け止めさせる工夫	○日本の伝統や文化を継承している人を外部講師として招聘し、話を聞き、交流する機会や、書籍等資料を用いて調べる機会を設定する。
	II 各時代の文化の特色を政治、産業、社会、対外関係などに関連させて捉えさせる工夫	○文化の特色について、政治、産業、社会、対外関係などの視点を明確にし、関連を考えさせる機会を設定する。
	III 日本の伝統や文化を他国の伝統や文化とのつながりを意識しながら捉えさせる工夫	○他国の伝統や文化のつながりについて、資料等を用いて示したり、資料から考えさせたりする機会を設定する。
各教科共通の手だて	① 小・中・高の系統的な指導	○「時代背景との関連」、「時間的なつながり」、「空間的なつながり」、「継承や創造の意義」を視点として、伝統や文化について考えさせる。
	② 興味・関心の喚起	○中学校・高等学校ではプレテスト等を実施し、既習事項の理解度を把握したり、他校種の学習内容を把握したりする。それらを踏まえて、興味を引き付ける資料の活用等、導入を工夫するとともに、体験や見学を通して自ら調べる機会を効果的に位置付ける。
	③ 言語活動の充実	○話し合いや説明、討論、プレゼンテーションなどの学習活動を適切に位置付ける。話し合いや討論では、視点を明確にして話し合い等を行わせる。 ○日常のノートやレポート、新聞、紙芝居、かるた、パンフレット、年表、キャッチフレーズ作り等でも「自分の言葉で表現する」活動を設定する。
	④ 実生活とのつながりの明確化	○日本の歴史と現在の生活とのつながりを意識させる資料提示や発問の機会を設定する。 ○日本の伝統や文化を継承している人を外部講師として招聘し、話を聞き、交流する機会を設定する（社会科で設定した手だてIと同様）
	⑤ 学習習慣の確立（主体的な学びの促進）	○学習内容の理解を深めたり、資料館等を活用する意欲や関心を高めたりするため、資料館・博物館等の活用を学習計画に適切に位置付ける。 ○新聞や各種資料を進んで読み、社会的事象に関心をもつようにさせる。
	⑥ 評価の工夫	○学習の状況をより多面的に把握するため、ペーパーテストに偏らず、行動観察、記述分析、発言分析、作品等、多様な評価を行う。

また、本研究では、伝統や文化における育てたい認識を次のように捉えた。

育てたい認識

- ① 伝統や文化は、人々の思いによって受け継がれてきた。
- ② 伝統や文化はそれぞれの時代背景によって生まれた。
- ③ 他国にも伝統や文化があり、互いに尊重し合うことが大切である。
- ④ 伝統や文化を、受け継ぎ、未来に向けて私たちが創造していく。

小学校

中学校

高等学校

ク システム表の内容及び活用について

(7) システム表の内容

社会科においては、広い視野に立って理解・認識する力を育成するために、調査や資料等を通して思考し、事象を多面的・多角的に捉える力を身に付けていくことが大切であると考へ、「思考・判断・表現する力」と「資料活用の技能」を高めていくことに着目した。「思考・判断・表現する力」については、「課題を見いだし見通しをもって考へ表現する力」、「特色や意味を考へ表現する力」とした。「資料活用の技能」については、「観察・調査・資料を活用する力」、「観察したこと、調査したこと、資料から読み取ったことをまとめる力」として、発達の段階に応じて身に付けさせたい力を位置付けた。

（システム表は、64・65ページに掲載）

(4) システム表の活用

発達の段階に応じて、身に付けさせたい力や技能を示しているため、それに基づいて、単元の目標や学習内容を設定していくことができる。例えば、資料活用の技能では、小学校第3・4学年では、「資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉える」こと、小学校第5・6学年、中学校・高等学校では「複数の資料を関連付けて読み取る」ことができるようにしていくことができる。複数の資料を関連付けることについては、小学校では2種類程度から、中学校・高等学校ではさらに多くの資料を関連させることになる。また、扱う資料も発達の段階に応じて内容が高度になる。

この他、説明すること、多面的・多角的に事象を捉えることについても発達の段階に応じて求められる力を把握し、次の発達の段階でどこまで求められるのか、また、前の段階では、どこまでを身に付けているのかを参考に、学習活動を組み立てていくことができると考へた。

また、下段には、日本の伝統や文化に関する学習をどのような内容で行っていくのか参考とする内容例を示した。

ケ 検証授業

研究主題に迫るための手だての有効性を検証するために、社会部会では、以下の検証授業を行い、指導事例の修正を図った。

<検証授業>

校種	学年	単元名
小学校	第3学年	むかしの道具を調べてみよう
小学校	第6学年	今に伝わる室町文化
中学校	第1学年	貴族社会の発展
中学校	第1学年	古代までの日本「古代の大観」
中学校	第2学年	江戸の化政文化（浮世絵）
高等学校	第1学年	【日本史A】 文明開化と啓蒙主義
高等学校	第2学年	【(旧)日本史B】 明治初期の市民文化と社会生活の変化

コ 分析・考察

設定した手だての有効性について、「伝統や文化を継承する人たちの思いを受け止めさせる工夫」、「各時代の文化の特色を政治、産業、社会、対外関係などと関連させて捉えさせる工夫」、「興味・関心の喚起」、「言語活動の充実」を中心として記述する。

手だて：「伝統や文化を継承する人たちの思いを受け止めさせる工夫」

◇ 日本の伝統文化を継承している人材の活用

小学校では、茶の湯体験、昔のくらしの学習の際に、外部講師の思いを聞いた。また、茶の湯体験では外部講師からのメッセージを録画し、学習のまとめで活用したことにより、文化を継承する大切さを感じることに繋がった。

<茶の湯体験による記述> 小学校第6学年

○文化の継承の意義についての理解

- ・いろいろな人によって受け継がれてきたんだと感心した。
- ・実際に体験してみて、礼儀正しく難しいものであった。
- ・これが室町時代から始まり、今につながっていることがすごいと思った。

○伝統・文化を継承することの大切さを実感

- ・600年続いたこの文化を途切れさせることなく、もっと続けさせていきたい。
- ・この室町文化を外国に広めたいと思った。そして、外国の人たちにもこんなすばらしい文化があるのかと思ってほしい。



地域の昔の様子について聞く

中学校では、地域に在住する歌人を外部講師に迎え、短歌作りを体験した。この体験から短歌を作ることの素晴らしさや面白さを感じ、関心を高めることができた。継承する人から直接話を聞くことは、その人の気持ちや願いが伝わりやすく、思いを受け止めさせる手だてとして有効であることが分かった。

<短歌作りによる記述> 中学校第1学年

- ・短歌を色々作ったけれど、やればやるほど上手に作れるし、面白さが分かってきたから短歌はとてもすばらしいと思った。
- ・平安時代にこんな風に作るのが楽しくて聞くこともよい遊びをしていたなんてすごいなと思いました。作るのが楽しかったので、たまに短歌を作ってみようと思います。
- ・みんなととてもきれいな心、気持ちをもっているんだなと知り、とてもうれしく思った。この授業を通して、私たちの先人がつくり出した大切な文化を守りぬきたいと心から思った。

◇ 書籍等の資料を用いて調べる機会の設定

高等学校では、書籍等の資料を用いてテーマに沿って調べる学習を行った。資料活用については、インターネット等の有用な情報の取り出し方を教師が示すことにより、生徒が自主的に調べる活動への取組につながった。また、資料を活用する際には、取り扱う資料を吟味し、示していく必要があることが分かった。

<文明開化の調べ学習による記述> 高等学校第1学年 日本史A

- ・文明開化時に生まれた文化がかなり現在に残っている。しかし、文明開化前の文化もすたれずに残っているあたりが、日本人らしいところだと思った。
- ・昔があるからこそ今があるということを知ることができてよかった。現代にも名残があるんだなと思った。文明開化あつての今なんだなと思った。今とのつながりや違いなど様々なことが分かった。

手だて：「各時代の文化の特色を政治、産業、社会、対外関係などと関連させて捉えさせる工夫」

◇ 視点を明確にして関連を考えさせる活動の工夫

中学校・高等学校では、「テーマに沿って調べたことを交流し、互いの理解を深め、多面的・多角的に捉えるようにする学習」、「単元を通して学習したことを振り返り、分かったことをまとめる学習」において、視点を明確にして考えさせた。実践では、視点が明確に

示しきれていないこともあった。また、示すことができても個人やグループの活動になると、生徒は伝統や文化の事実やその特色を整理することに終始する傾向が見られた。教師が板書やカードを用いて視点を明確に示すとともに、意識させるため、言葉掛けなどの働き掛けが大切であることが分かった。

歴史的事象を基に、背景や関連などを自分で考え、レポートに記述する活動は、生徒に思考することを求めるものであり、自分の言葉で表現する力を身に付ける上で、重視して取り入れていくことが必要であることが分かった。また、文化を政治や経済等の時代背景と関連させて捉えさせるには、文化を政治や経済などの中で位置付けて考えさせる活動を確実に設定したり、背景を捉えさせることができる資料を準備したりすることが必要であることが分かった。

手だて：「興味・関心の喚起」

◇ ICTの活用

小学校では、児童の興味・関心や学習への意欲、集中力の持続、理解の促進に役立った。茶の湯体験では、体験場面を録画し、次時や学習のまとめで活用することにより体験の想起が容易になり、学習のまとめにも意欲的に取り組む姿が見られた。

中学校・高等学校では、ICTを用いて映像資料や資料を提示することにより、視覚的に捉えることができるため、生徒に短時間で効果的に概要を理解させることができた。

◇ プレテストの実施

中学校・高等学校では、プレテストを実施し、教師が生徒の既習事項の理解状況を把握して学習活動を始めた。中学校で学んだ後、高等学校で学ぶまでの間に日本史の学習の期間が2年ほどある場合もあり、プレテストで理解の状況が十分でない場合には、学習する内容の概要を捉えることができる映像資料を活用して生徒の理解を促すことができた。

◇ 博物館や地域素材の活用

地域と関連の深い浮世絵を素材として活用することや、国立博物館への見学によって、生徒の興味・関心を高めることができた。授業後の振り返りでは、8割の生徒が博物館の活用の有用性を感じる記述をしていた。

<博物館で実際に見ることに有用性を感じる記述> 中学校第2学年

- ・実際に絵を見て、浮世絵の繊細な感じが分かった。彫師の人の苦勞が目に見えます。髪の毛一本を彫る作業のつらさに感動しました。
- ・とても繊細なのに一つ一つの作業がとても丁寧で、見た瞬間「自分も欲しい」と思いました。浮世絵のすばらしさに心を奪われました。
- ・美人画が多かったけれど、間近で見て毛割りの技術がすごかったのが、一番印象に残りました。
- ・本当に習った内容と同じような技法が使われているのが分かりました。髪の毛など細かくて現在よりも高度な技術だと思います。

手だて：「言語活動の充実」

◇ 問題解決的な学習における話合いの活動

全ての校種でテーマに沿って資料から調べたことをまとめ、交流する言語活動を行った。資料から必要な情報を読み取ること、それをまとめる活動では、児童・生徒が互いに分からないことを聞き、教え合うなどして、自分一人では得られない考え方を知ったり、自分の考え方を確かなものにしたことができた。このことが、伝統や文化を多面的・多

※本研究では、小学校で学習問題を設定して追究する学習や、中学校・高等学校で課題を設定し探究する学習を「問題解決的な学習」として捉えた。

角的に捉える力に結び付いた。

また、調べたことを発表したり説明したりする活動は、内容を十分に理解することが求められるとともに、自分の言葉で伝えることが必要となる。自分の言葉で発表・説明するためには、既習事項や調べて分かったことなどを基に、思考を整理し、何をどのように伝えるのかを判断等しながら表現することになり、児童・生徒の思考力・判断力・表現力等を育む上で重要である。



レジュメを使って調べたことを説明

高等学校では、カリキュラムの関係等、課題を追究する学習に十分な時間を充てることが難しい状況もあることから、高等学校の指導の実情を考慮し、実施時期や単元の構成等の工夫が必要であることが分かった。

その他の研究主題に迫るための手だてについて

- 「日本の伝統や文化を他国の伝統や文化とのつながりを意識しながら捉えさせる工夫」については、外国との関連を表す資料を用いて、その資料を読み取る時間を設定したことにより、伝統や文化のつながりを意識することにつながった。
- 「小・中・高の系統的な指導」については、発達の段階に応じて、「時代背景との関連」、「時間的なつながり」、「空間的なつながり」、「継承や創造の意義」を共通の視点としたことで、伝統や文化を広い視野に立って多面的に理解・認識させることにつながった。
- 「実生活とのつながり」については、資料の読み取りや教師の発問の工夫、伝統を継承する人の話を聞くことを通して、現代とのつながりを意識させることにつながった。
- 「学習習慣の確立」については、博物館の活用が意欲や関心を高めることにつながった。また、自らインターネット等を用いて調べる活動を促進させた。
- 「評価の工夫」については、ワークシート、振り返りのシート、作成したレジュメ等の記述の分析や調べ活動、発表・説明での行動観察を通じて多様な評価を行い、指導の改善にも生かすことができた。

サ 成果と授業改善の提案

成果

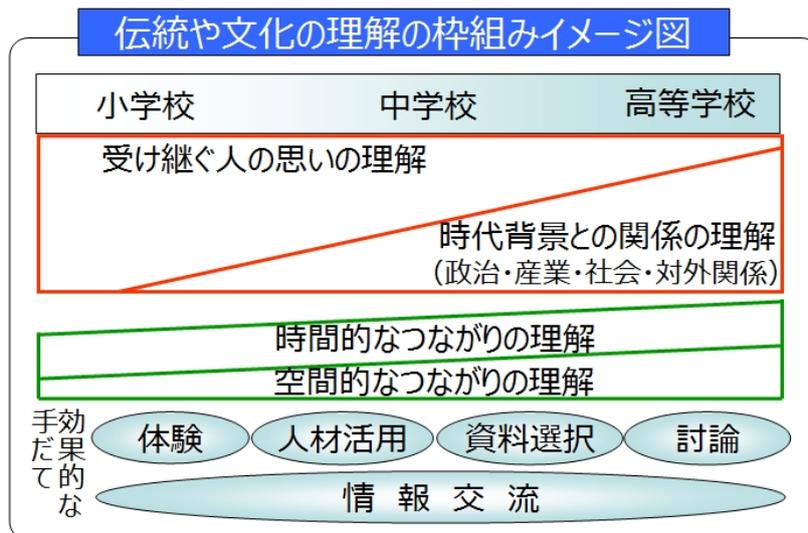
- 伝統や文化を継承する人を外部講師として招聘し、直接話を聞く機会を設定することにより、児童・生徒は、伝統や文化の意義、継承についての理解を深めることができた。前述（P45）の育てたい認識の①及び②については、捉えさせることができ、国際社会に主体的に生きる力の素地を育むことができた。
- 調べたことを発表・説明するなどの交流の時間を設定したことにより、伝統や文化について多面的・多角的に捉えることができた。
- プレテストを行い、必要な既習事項の理解状況を把握することにより、生徒の関心・意欲や理解状況に即した学習の組み立てを行うことができた。

- 小学校、中学校、高等学校の各発達段階における効果的な指導の手だてがあることが明らかになった。

授業改善の提案

- 伝統や文化の理解や継承の気持ちを育むためには、伝統や文化の継承等に携わる人材を効果的に活用すること
- 伝統や文化をはじめとして、社会的（歴史的）事象を広い視野に立って理解・認識するためには、資料を活用し、情報を読み取ること、読み取った情報等を他者と交流する活動を学習に位置付けること
- 体験、調査、見学、資料の活用、情報の交流等では、視点を明確にして行わせること
- 高等学校での課題を探究する学習は実施時期を工夫して、経験できるようにすること
- 系統表を活用し、身に付けさせる力を見通して指導計画を作成すること
- 校種に応じた効果的な手だてを設定していくこと

小学校では、体験や人材活用、中学校では人材活用や資料選択、高等学校では、資料選択や討論等を設定する。また、全校種で情報交流をする活動を設定する。



問題解決的な学習を充実させるための工夫

社会科においては、小学校・中学校・高等学校を通して、学習問題や課題を設定し、追究していく学習活動の充実が求められている。本研究においても、日本の伝統や文化を広い視野に立って理解・認識する力を高めることを目指す上で、問題解決的な学習を取り入れるようにした。問題解決的な学習は、小学校、中学校、高等学校で一樣な方法では、十分な効果は得られない。以下、本研究から得られた各学校段階で取り組む方法である。

小学校

単元の導入段階で児童の興味・関心を高め、学習問題を設定する。そして、予想を基に調査・見学・資料から調べる活動を位置付け、学習問題を追究していく過程を組み立てる。

中学校

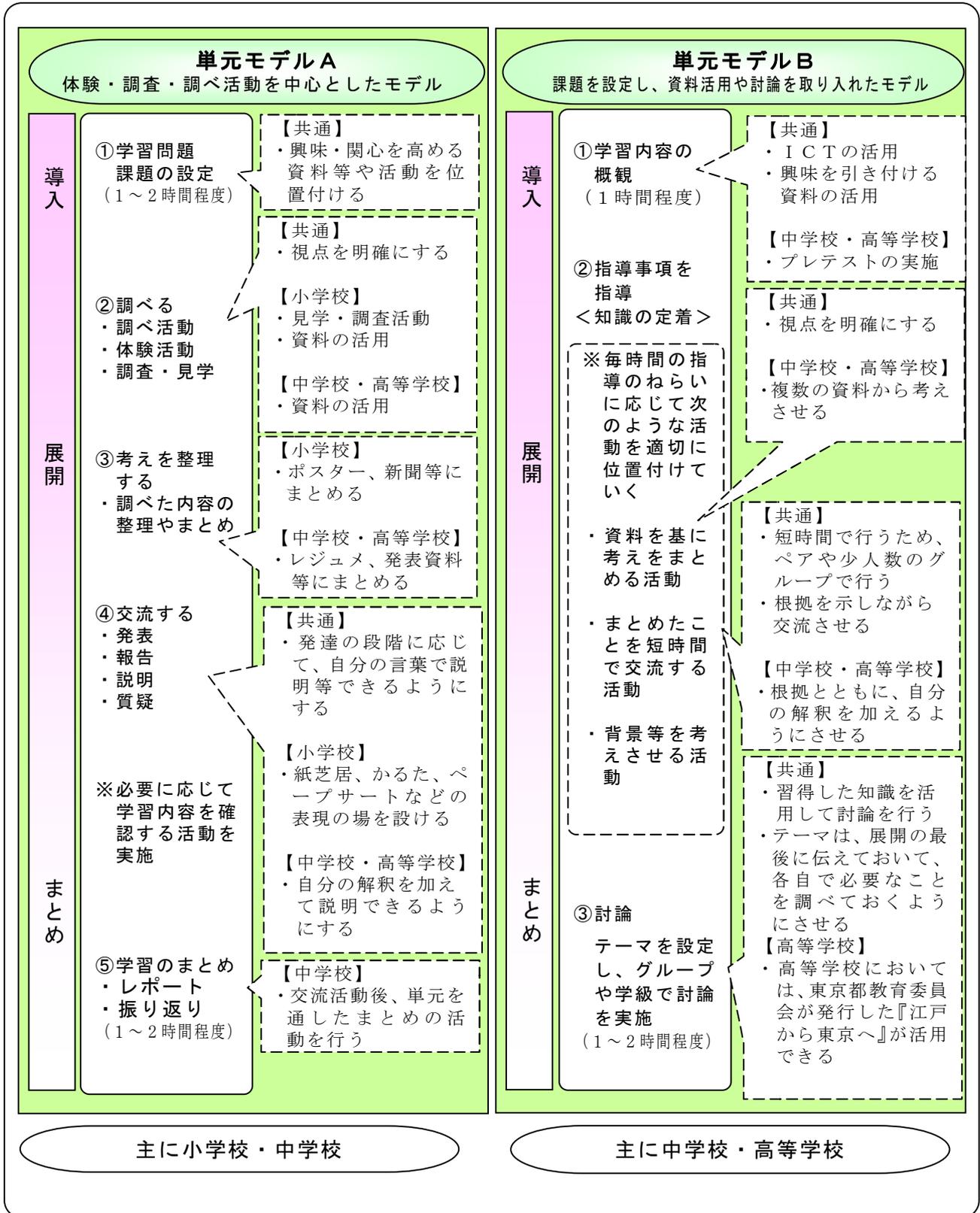
調べ活動を行う際には、資料を十分に用意し、自分が追究するテーマに必要な情報を読み取るようにさせることが重要である。また、同じテーマを調べる班を複数設定することにより、調べた内容の相違から、内容等について討論する機会も設定できる。

高等学校

適切な課題を設けて、資料を読み取り自分で考えをまとめる活動や、身に付けた知識を活用して背景を考えさせる活動を取り入れる。それを短時間で交流し、互いの考えを深める活動を効果的に位置付ける。また、単元の終末には、学習したことを踏まえてテーマを設定し、討論する活動を位置付ける。その際、東京都教育委員会が発行している「江戸から東京へ」が活用できる。

本研究から明らかとなった単元のモデル

小学校、中学校、高等学校の発達の段階や学習内容の質や量を踏まえ、単元のモデルを作成した。モデルAは主に小学校及び中学校において、学習問題や課題を設定し、グループなどで調べる活動を通して追究していく学習である。モデルBは、主に中学校及び高等学校において、資料活用や考えたことの交流を位置付けながら指導事項の理解を図り、身に付けた知識等を用いて、単元のまとめに討論する活動を設定したものである。



社会1 小学校 「今に伝わる室町文化」

第6学年

【本単元の概要】

室町時代は、現在の和室につながる書院造があらわれたり、茶の湯、生け花といった現在にも継承されている文化の基礎がすえられたりした時代であり、児童にとって実際の生活から身近に感じながら学習できる。

実際に茶の湯体験を通して、今に伝わる伝統・文化を感じ取らせていく。

【系統表のとの主な関連】

- ・学習問題を踏まえて、地図、地球儀、統計、年表、その他の資料を活用して調査を行い、必要な情報を読み取ることができる。
- ・調査、体験などによって調べたことや考えたことを自分の言葉で説明したりすることができる。

1 単元の目標

京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画とそれらに関わる人物の働きを通して、今日の生活文化に直結する要素をもつ室町文化が武士や民衆の中から生まれ、今も多くの人々に親しまれていることが分かるとともに、それらに関わる人物の願いや働き、代表的な文化遺産の意味を考える。

2 単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 観察・資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
①室町文化について関心をもち、進んで調べようとしている。 ②茶の湯体験に関心をもち、そのよさや特徴を考えようとしている。	①室町文化についての学習問題について考え、表現している。 ②室町文化の中には現代にも伝わっているものがあることについて考え、表現している。 ③室町文化の中には、が今の時代にも、受け継がれているものがあることの意味を考え、表現している。	①雪舟と墨絵、観阿弥・世阿弥と能、茶の湯、生活様式について教科書や資料などを活用して調べ、読み取ったり、まとめたりしている。 ②室町文化が現代の生活にも生きていることについて、調べたことや体験したことから必要な情報を集め、読み取ったりまとめたりしている。	①書院造の特色を現代の和室と比較し、室町文化が京都を中心に日本各地に広がっていったことを理解している。 ②室町文化の中には現在まで続いているものがたくさんあることを理解している。

3 本事例における研究主題に迫るための手だて

	手だて	内容
社会科で設定した手だて	I 伝統や文化を継承させる人の思いを受け止める工夫	○茶の湯を継承する人から、茶の湯に対する思いや願いを直接聞く活動を設定する。
	II 各時代の文化の特色を政治、産業、社会、対外関係などと関連させて捉えさせる工夫	○中国（明）との貿易によって足利義満が大きな力を持ち、文化や芸術を保護したことに触れる。
	III 日本の伝統や文化を他国の伝統や文化とのつながりを意識しながら捉えさせる工夫	○水墨画（中国）、漢学（中国）について調べたり、考えたりする活動を設定する。
各教科共通の手だて	① 小・中・高の系統的な指導	○「時間的なつながり（現在とのつながりも含む）」、「空間的なつながり（他国とのつながりも含む）」、「継承や創造の意義」について考える活動を取り入れる。 ○室町時代の文化の特色を考えたり、室町文化は今の生活に生きる文化であることを考えたりする学習活動を位置付ける。

② 興味・関心の喚起	<ul style="list-style-type: none"> ○興味を引き付ける資料の活用等、導入を工夫するとともに、体験やインタビューを通して自ら調べる活動を効果的に位置付ける。 ○単元の導入時や展開時に教科書・資料集の拡大写真を用いる他、ICTを活用する。 ○茶の湯体験を通して、茶の湯の実際が分かるようにする。
③ 言語活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合い活動を適切に位置付ける。 ○少人数の話し合いから、友達の考えを取り入れ、自分の考えを再構築する活動を設定する。 ○グループによる調べ学習や体験活動を行い、グループ内で互いに自分の考えを伝え合う他、学級全体でグループの発表を聞き、相互に伝え合う活動を設定する。
④ 実生活とのつながりの明確化	<ul style="list-style-type: none"> ○室町文化は、今もなお、多くの人々に親しまれていることを意識させる活動を設定する。 ○現在の生活とのつながりを意識させるため、書院造の部屋と現在の和室のつくりを比べる活動を設定する。
⑤ 学習習慣の確立 (主体的な学びの促進)	<ul style="list-style-type: none"> ○室町文化の中には、今もなお、継承されているものがあることを説明し、機会があれば、日常での生活や博物館等で探索するようにふれる。
⑥ 評価の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○ノート記述や発言、発表時の観察を通して、児童の学習状況を多面的に把握する。 ○机間指導等、即時的な評価を行い、支援が必要な児童への手だてを準備しておく。

4 指導計画（7時間扱い）

	学習のねらい	学習活動 研究主題に迫るための手だて	評価規準 (評価方法)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・金閣と銀閣について興味・関心をもち、室町文化についての学習問題を考え、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○金閣や銀閣の写真などを見て、気付いたことを話し合い、当時の文化に関心をもち、金閣や銀閣について調べ、足利義満が保護した様々な文化について知り、学習問題を作る。 <p>【学習問題】 京都に幕府が置かれたころの文化は、どのようなものだろうか。</p> <p>【共通②興味・関心】 人物画の写真画（教科書・資料集：拡大写真） ICTの活用 【教科Ⅱ】 中国（明）との貿易によって足利義満が大きな力を持ち、文化や芸術を保護したことに触れる。</p>	<p>アー① (ノート記述、 発言分析) イー① (ノート記述、 発言分析)</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・書院造の特色を現代の和室と比較し、室町文化は京都を中心に日本各地に広がっていったことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書院造の部屋と現在の和室のつくりを比べる。 ○書院造の部屋で行われていた文化を調べる。 (茶の湯や床の間にある生け花) ○茶の湯についての作法や考え方について調べる。 ○室町文化が京都からどのように地方に広がっていったか調べて考える。 <p>【共通①系統性】 時間的、空間的なつながりについて考えさせる。 【共通②興味・関心】 興味を引き付ける資料、拡大写真の活用 【共通④実生活】 現在の生活とのつながりを意識させるため、書院造の部屋と現在の和室のつくりを比べる活動を設定する。 【教科Ⅲ】 水墨画、漢学について調べたり、考えたりする活動を設定する。</p>	<p>イー② (ノート記述) エー① (ノート記述)</p>

<p>3 ・ 4</p>	<p>・室町文化について調べる。</p>	<p>○前時を振り返る。 ○グループで分かれて調べ学習をする。 ・観阿弥、世阿弥と能グループ ・雪舟と墨絵グループ ・生活様式グループ ・生け花グループ ○調べたことを他のグループに発表するための準備をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通②興味・関心】 拡大写真 ICT 教材を活用する。 【共通③言語活動】 グループによる調べ学習、グループ内で自分の考えを伝え合わせる。 【教科Ⅲ】 水墨画、漢学について調べたり、考えたりする活動を設定する。</p> </div>	<p>ア－① (観察) イ－② (ノート記述) ウ－①、② (ノート記述、 発言分析)</p>
<p>5</p>	<p>・室町文化について調べたことを発表する。</p>	<p>○前時を振り返る。 ○グループごとに発表することの最終確認をする。 ○発表会をする。 ○共通点について自分の考えをもち、交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通①系統性】 時間的、空間的なつながりについて考えさせる。 【共通③言語活動】 学級全体でグループの発表を聞き、相互に伝え合う活動を設定する。 【教科Ⅲ】 水墨画、漢学について調べたり、考えたりする活動を設定する。</p> </div>	<p>イ－② (観察、 ノート記述) エ－② (ノート記述)</p>
<p>6</p>	<p>・茶の湯に関心をもち、そのよさや特徴を考える。</p>	<p>○茶の湯について知る。 ○茶の湯体験をする。 (茶の湯の特徴やよさについて考えながら体験をさせる。) ○体験を通して分かったことや考えたことを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通②興味・関心】 茶の湯体験を通して茶の湯の実際が分かるようにする。 【共通④ 実生活】 室町時代に生まれた文化は、今もなお多くの人々に親しまれていることを意識させる活動を設定する。 【教科Ⅰ】 茶の湯を継承する人から、茶の湯に対する思いや願いを直接聞く活動を設定する。</p> </div>	<p>ア－② (観察、 発言分析、 ノート記述)</p>
<p>7 (展 開 例)</p>	<p>・文化は長い年月の中で受け継がれていることが分かり、自分たちも受け継いでいくものであることを考える。</p>	<p>○体験活動を振り返り、室町文化の中には、今の時代にも受け継がれているものがあることを意味を考える。 ○それぞれ調べた文化の特徴について、キャッチコピーでまとめる。 ○室町文化の中には、今の時代にも受け継がれているものがあることを意味を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通②興味・関心】 興味を引き付ける資料の活用 ICT 教材の活用 【共通③言語活動】 グループ内で互いに自分の考えを伝え合う他、学級全体でグループの発表を聞き、相互に伝え合う活動を設定する。</p> </div>	<p>イ－③ (ノート記述、 発言分析)</p>

5 展開例 第7時

(1) ねらい

- ・文化は長い年月の中で受け継がれていることが分かり、自分たちも受け継いでいくものであることを考える。

(2) 展開

	学 習 活 動 ・予想される児童の反応	○留意点 ◆資料 【評価規準】(評価方法) 研究主題に迫るための手だて
導 入	<p>1 茶の湯体験活動を茶の湯体験をしたときの映像資料を視聴し、振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちが飲んでいるお茶が、室町時代から飲まれていた。 ・お茶の飲み方には室町時代から作法があった。 ・お茶は長い間日本人に親しまれていた。 	<p>○前時の児童の感想から、茶の湯が現在につながっていることをつかませる。</p> <p>◆映像資料の活用 【共通②興味・関心】 興味を引き付ける資料、拡大写真の活用 ICT教材の活用</p>  <p>映像資料で茶の湯体験の振り返り</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">室町文化を伝えるキャッチコピーを考えよう。</div>	<p>○学級全体で前時に体験した茶の湯を基に、キャッチコピーを考え、活動の見通しをもたせる。</p> <p>○体験した茶の湯について、キャッチコピーを考えさせる。考えが出ない場合は、前時の児童の感想から、教師が例示する。</p>
展 開	<p>2 それぞれ調べた文化の特徴について、キャッチコピーでまとめる。</p> <p>①各自がそれぞれの文化のキャッチコピーを考える。</p> <p>②グループになり、自分の作ったキャッチコピーとその根拠を発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【墨 絵】 自然を美しく表現する文化。 ・【 能 】 人々を楽しませる文化。 ・【生活様式】 食事の楽しみを増やした文化 ・【生 け 花】 人の心をいやしたり、美しくしてくれたりする文化。 	<p>○学習問題を振り返り、室町文化のキャッチコピーを作らせる。</p> <p>○なぜそのキャッチコピーにしたのか根拠を書かせる。</p> <p>○話し合う際には、根拠を基にして自分の考えたキャッチコピーを説明させる。</p> <p>○グループは調べた内容が違うメンバーで構成する。</p> <p>【共通③言語活動】 少人数の話合いから、友達の考えを取り入れ、自分の考えを再構築する活動を設定する。 グループ内で互いに自分の考えを伝え合う他、学級全体でグループの発表を聞き、相互に伝え合う活動を設定する。</p>
	<p>3 室町文化の中には、今の時代にも受け継がれているものがあることを意味を考える。</p>	<p>◆茶道を受け継いでいる人の話を聞く。(映像資料)</p> <p>○単元の学習を振り返り、文化が受け継がれていることや、自分たちも受け継いでいくことの必要性を考えさせる。</p> <p>【イー③】(ノート記述、発言分析)</p>
ま と め		

社会2 中学校 「貴族社会の発展」(天平文化と国風文化) 第2学年

【本単元の概要】

奈良・平安の時代の文化は、現在、文化財として残っているものや、現在使われている仮名文字が発達するなど、現代の生活からその時代の文化を捉えることができる学習である。

本単元では、テーマに沿って調べたことをまとめ、自分の言葉で説明し、互いに交流することを通して伝統や文化についての理解を深めることねらいとした。

【系統表との主な関連】

- ・課題を踏まえて年表、歴史地図、映像など歴史に関する様々な資料、調査から有用な情報を読み取ることができる。
- ・多面的・多角的に考察したことを公正に判断して、その過程や結果を適切に図や文章等で表したり、自分の言葉で適切に説明したりすることができる。

1 単元の目標

国際的な要素をもった文化が栄えた後に文化の国風化が進んだことを、大陸との関係や、仮名文字の発達などから理解するとともに、古代の文化が現代の人々の生活に深く関わっていることを知る。

2 単元の評価規準

ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
①奈良時代・平安時代の文化の特色や誕生した要因、国際関係などに関する関心と課題意識を高めている。	①奈良時代・平安時代の文化の特色や誕生した要因、国際関係などに関する課題を見出し、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	①奈良時代・平安時代の文化の特色や誕生した要因、国際関係などに関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択している。	①奈良時代・平安時代の文化の特色や誕生した要因、国際関係などに関する事柄を、総合的に理解し、その知識を身に付けている。
②奈良時代・平安時代の文化の特色や誕生した要因、国際関係などに関し、意欲的に追究しようとしている。	②奈良時代・平安時代の文化を現代に受け継ごうとしている人々の思いや願いを理解して、表現している。	②奈良時代・平安時代の文化の特色や誕生した要因、国際関係など課題を読み取ったり、他者へ説明できるようにまとめている。	②奈良時代・平安時代に生まれた文化を当時の時代背景と関連させ、現在まで続いているものがたくさんあることを理解している。

3 本事例における研究主題に迫るための手だて

	手だて	内 容
社会科で設定した手だて	I 伝統や文化を継承させる人の思いを受け止める工夫	○歌人を外部講師として招聘し、短歌づくりを行い、伝統や文化を継承する思いを聞く機会を設定する。
	II 各時代の文化の特色を政治、産業、社会、対外関係などと関連させて捉えさせる工夫	○文化の特色を政治、産業、社会、対外関係などの視点を明確にし、関連を考えさせる機会を設定する。
	III 日本の伝統や文化を他国の伝統や文化とのつながりを意識しながら捉えさせる工夫	○他国の伝統や文化のつながりを資料等を用いて示したり、資料から考えさせたりする機会を設定する。
各教科共通の手だて	① 小・中・高の系統的な指導	○「時代背景との関連」、「時間的なつながり」、「空間的なつながり」、「継承や創造の意義」を視点として、伝統や文化について考えさせる。
	② 興味・関心の喚起	○プレテストを実施し、既習事項の理解度を把握する。プレテストの結果を踏まえて、興味を引きつける資料の活用等、導入を工夫するとともに、体験や見学を通して自ら調べる活動を効果的に位置付ける。
	③ 言語活動の充実	○調べ学習においてグループでの話し合いなどの学習活動を適切に位置付ける。 ○発表用資料や原稿の作成では、調べたことを基に、「自分の言葉で表現する」ようにさせる。

④ 実生活とのつながりの明確化	○短歌を作成する活動を通して、現代にも受け継がれていることを理解させる。
⑤ 学習習慣の確立 （主体的な学びの促進）	○奈良時代や平安時代についての新聞記事を示し、現在においても歴史についての新しい発見があることを意識させる。また、新聞や資料を通して自ら情報を得ることについて意識を高める。
⑥ 評価の工夫	○学習の状況をより多面的に把握するため、ペーパーテストだけでなく、行動観察、記述分析、発言分析、作品等、多様な評価を行う。

4 指導計画（6時間扱い）

時	学習のねらい	学習活動		評価規準 （評価方法）
		研究主題に迫るための手だて		
1	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもち、奈良時代・平安時代の文化の内容、特色を、国際関係や時代のとつながりに関連付けて説明できるように、グループごとに準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○奈良時代・平安時代の既習の知識、文化について確認をする。 ○学習課題を設定する。 天平文化・平安文化について、追究する内容をそれぞれ以下の三つの中からをグループごとに選ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・文化の具体的内容 ・文化の特色とその背景 ・現在とのつながり ○各グループごとに、発表用に取り上げる代表的な事例を選定する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通①系統性】 時間的・空間的なつながりを意識させる。</p> <p>【教科Ⅱ】 文化の特色を政治、産業、社会、対外関係などに関連させて捉えさせる。</p> <p>【教科Ⅲ】 他国の伝統や文化とのつながりを意識しながら捉えさせる。</p> <p>【共通③言語活動】 グループで話し合い、資料収集について考えさせる。</p> </div>	ア－① （観察）
2・3	<ul style="list-style-type: none"> 奈良時代・平安時代の文化について、教科書や資料、図書館の本、インターネットなどを活用して調べ、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを用いて意見交換をしながら、発表用資料を完成させていくことを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題を追究する1（グループ学習）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○グループごとに発表用資料を準備し、発表方法を確認する。 ○収集した資料を検討し、発表用資料と原稿を作成する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【共通①系統性】 時間的・空間的なつながりを意識させる。</p> <p>【教科Ⅱ】 文化の特色を政治、産業、社会、対外関係などに関連させる資料を提示する。</p> <p>【教科Ⅲ】 他国の伝統や文化とのつながりを意識できる資料を提示する。</p> <p>【共通③言語活動】 グループで話し合い、発表原稿、説明用資料をまとめさせる。</p> </div>	ア－② （観察、ワークシート記述） イ－① （ワークシート記述） ウ－①、② （観察、発言分析、ワークシート記述、説明資料記述）

4	<p>・短歌づくりを通して平安文化に触れ、過去の日本文化が現代に受け継がれていることを知るとともに、文化継承について考える。</p>	<p>○古代の文化で始まった短歌がどのようなものであるかを体験する。またその体験により学んだことをまとめる。</p> <p>学習課題を追究する2（短歌づくり体験）</p> <p>○短歌づくりをする （地域在住の歌人を招き、短歌づくりをする。）</p> <p>○体験を通して気が付いたことや感じたことをまとめる。</p> <p>【共通①系統性】 時間的・空間的なつながりを意識させる。 【教科Ⅱ】 文化の特色を政治、産業、社会、対外関係などとの関連も説明に加える。 【教科Ⅲ】 他国の伝統や文化とのつながりを意識できる説明を加えさせる。</p>	<p>エー② （ワークシート記述）</p> <p>イー② （観察、発言分析、ワークシート記述）</p>
5	<p>・奈良時代・平安時代の文化の内容、特色を、国際関係や時代の間つなぎりと関連付けて、それぞれ同時代のグループに対して説明をし、同時代の文化の理解を深める。</p>	<p>○奈良時代・平安時代の文化の特色、現代とのつながりに関して、追究する同時代の内容を理解する。</p> <p>学習課題の発表1</p> <p>○追究する同時代のグループ内に対し、以下それぞれに追究している内容を互いに発表し合う。 ①文化の具体的内容 ②文化の特色とその背景 ③現在とのつながり</p> <p>○同時代のグループ内で学習会を行う。 ○疑問を出し、ワークシートに記入する。</p> <p>【共通①系統性】 時間的・空間的なつながりを意識させる。 【教科Ⅱ】 文化の特色を政治、産業、社会、対外関係などとの関連も説明に加えさせる。 【教科Ⅲ】 他国の伝統や文化とのつながりを意識できる説明を加えさせる。</p>	<p>イー①、② （観察、発言分析、ワークシート記述）</p>
6 （展開例）	<p>・奈良時代・平安時代の文化の内容、特色を、国際関係や時代の間つなぎりと関連付けて、追究した課題ごとに説明し、同時代の文化の多面的・多角的な理解を深める。</p>	<p>○奈良時代・平安時代の文化に関して、その特色や誕生した要因、現代とのつながりを、国際関係などを踏まえ理解する。</p> <p>学習課題の発表2</p> <p>○調べた内容を異なる時代のグループに発表する。 ○発表中、聞き手のグループは、ワークシートにメモをとる。 ○発表を受けた後、各自のグループに戻り、学習会を行う。（ワークシートへ記入し合い、情報を共有する。） ○ワークシートを活用し、本時の活動を通して気付いたことや分かったことを各自でまとめる。 ○グループでまとめて発表する。</p> <p>【共通①系統性】 時間的・空間的なつながりを意識させる。 【教科Ⅱ】 文化の特色を政治、産業、社会、対外関係などとの関連させる資料を提示する。 【教科Ⅲ】 他国の伝統や文化とのつながりを意識できる資料を提示する。 【共通③言語活動】 発表を通して得られた質問や感想を基に、グループで学習内容を振り返らせる。</p>	<p>イー② （観察、発言分析、ワークシート記述）</p> <p>エー①、② （観察、発言分析、ワークシート記述）</p>

5 展開例 第6時

(1) ねらい

- ・奈良時代・平安時代の文化の内容、特色を、国際関係や時代のつながりと関連付けて、追究した課題ごとに説明し、同時代の文化の多面的・多角的な理解を深める。

(2) 展開

	学習活動	○留意点 ◆資料 【評価規準】（評価方法） 研究主題に迫るための手だて
導 入	1 本時のねらいを確認する。	○奈良時代・平安時代の文化の内容、特色を、国際環境や時代のつながりと関連付けて、多面的・多角的な理解を深める。発表の順番や役割について確認する。
	2 前時までにまとめた内容を振り返り、各グループごとの発表内容を確認する。	○発表の順番、時間、発表の聞き方、まとめ方の確認をする。
展 開	3 奈良時代の文化・平安時代の文化の内容、特色、現代とのつながりなど、調べた内容を発表する。 課題 ①文化の具体的内容 ②文化の特色とその背景 ③現在とのつながり (1)奈良時代の発表 (2)平安時代の発表	○発表は、課題ごとに、他の時代を追究したグループに対して発表を行う。（1つのグループの発表は7分間） ○聞く側は分かれて聞き、後の学習会でその内容を交流させるようにする。 【教科Ⅱ】 文化の特色を政治、産業、社会、対外関係などと関連させて考えさせる。 【共通③言語活動】 ・自分が調べた内容について発表させる。 ・学習会においてグループで話し合い、共有した情報から文化についての理解を深めさせる。 ○発表中、聞き手のグループは、ワークシートにメモを取り、学習会で伝えられるようにさせる。
	4 発表を受けた後、各自のグループに戻り、学習会を行う。	○それぞれが聞いた内容を話し合い活動により交流し、情報を共有させる。  友達のよい気づきを情報収集
	5 文化の学習から分かったこと、感じたことをまとめる。	○ワークシートを活用し、本時の活動を通して気付いたことや分かったことを自分でまとめさせる。 【イー②】（発言分析、観察、ワークシート記述） 【エー①、②】（ワークシート記述）
まとめ	6 グループの意見をまとめ、発表する。	○発表は発表シートに記入し、黒板に貼り付ける。 ○単元の学習を通して感じたことをまとめる。

社会3 高等学校 日本史A 「文明開化と啓蒙主義」 第1学年

【本単元の概要】

単元の前半で、文明開化や啓蒙主義について基本的な知識・理解の定着を図り、習得した知識や技能を活用して資料を他者と読み取っていくことなどから、社会生活にどのような変化が起きたのかについて考察する学習である。

【系統表との関連】

- ・課題を踏まえて、年表、歴史地図、社会や文化の特色に関する様々な歴史資料や調査から有用な情報を読み取ることができる。
- ・比較や関連付け、総合などを通して、社会的事象を多面的・多角的に考察し、事実を正確に捉え、公正に判断し考察することができる。

1 単元の目標

明治時代初期の文明開化や啓蒙主義の特色及び社会生活の変化について、それ以前の時代との比較を踏まえて考察する。

2 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 資料活用 of 技能	エ 知識・理解
①明治初期の宗教、教育、思想や文明開化の中で変化した社会の様子に対する関心と課題意識を高めている。	①明治初期の宗教、教育、思想から課題を見だし、国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	①明治初期の宗教、教育、思想や文明開化の中で変化した社会の様子に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択している。	①明治初期の宗教、教育、思想に関する基本的な事柄を、国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。
②明治初期の宗教、教育、思想や文明開化の中で変化した社会の様子について、意欲的に追究している。		②明治初期の宗教、教育、思想や文明開化の中で変化した社会の様子に関する情報を読み取ったり、他者へ説明できるようにまとめたりしている。	②文明開化の中で変化した社会の様子を国際環境と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。

3 本事例における研究主題に迫るための手だて

	手だて	内容
社会科で設定した手だて	I 伝統や文化を継承する人の思いを受け止めさせる工夫	○明治時代初期の文化の特色や社会生活の変化を、書籍等資料を用いて調べる機会を設定する。
	II 各時代の文化の特色を政治、産業、社会、対外関係などと関連させて捉えさせる工夫	○明治時代初期の文化の特色や社会生活の変化を、政治、産業、社会、対外関係などの視点を明確にし、関連を考えさせる機会を設定する。

	Ⅲ 日本の伝統や文化を他国の伝統や文化とのつながりを意識しながら捉えさせる工夫	○明治時代初期の文化の特色や社会生活の変化と、他国の伝統や文化のつながりを、資料から考えさせる機会を設定する。
各教科共通の手だて	① 小・中・高の系統的な指導	○「時代背景と関連」、「時間的なつながり」、「空間的なつながり」、「継承や創造の意義」を視点として伝統や文化について考える活動を取り入れる。 ○明治初期の文化の特色や、その時代に変化した社会生活が今につながっていることを考える学習活動を行う。
	② 興味・関心の喚起	○プレテストを事前に実施し、中学校の学習内容など既習事項の理解度を把握する。 ○単元の導入時にICTを活用し、興味・関心を高める。
	③ 言語活動の充実	○話し合い、討論などの学習活動を取り入れる。話し合いや発表では、それ以前の時代とのつながりや変化など、視点を明確にして行わせる。
	④ 実生活とのつながりの明確化	○明治初期の文化と現在の生活とのつながりを意識させる資料を提示する。
	⑤ 学習習慣の確立 （主体的な学びの促進）	○学習内容の理解を深めたり、興味に基づき資料館等を活用する意欲や関心を高めたりするため、資料館・博物館等の活用について触れる。
	⑥ 評価の工夫	○学習の状況をより多面的に把握するため、行動観察、記述分析、発言分析等、多様な評価を行う。

4 指導計画（3時間扱い）

時	学習のねらい	学習活動	評価規準 (評価方法)
		研究主題に迫るための手だて	
1	・文明開化と啓蒙主義、社会生活の変化に関する既習事項を確認する。その上で、明治初期に、宗教、教育、思想や社会生活にどのような変化が起きたのかについて興味、関心をもつ。	○事前にプレテストを実施し、中学校までの既習事項の理解度を把握しておく。 ○映像資料を視聴し、太陽暦、明六雑誌、銀座の町の様子、学制などについて確認する。 【共通②興味・関心】 プレテストの実施 ICTの活用 【教科Ⅲ】 欧米の進んだ文物・技術に加え、欧米思想も取り入れられたことを理解させる。	アー① (観察)

<p>2</p>	<p>・明治初期の宗教、教育、思想がどのように変わったのかを考察する中で、文明開化と啓蒙思想について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新政府の宗教政策について理解する。 ・寺院と神社における参詣方法の違いなどから、神仏習合と神仏分離について考察する。 ○ 新しい教育について理解する。 ・「江戸から東京へ」P87「義務教育における就学率の向上」のグラフを見て、学制や教育令について考察する。 ○ 啓蒙思想など西洋思想が流入したことを理解する。 ・西洋思想の受容姿勢が江戸時代と違うことを考察する。天賦人權思想について理解し、それが福沢諭吉らによって広められていったことを確認する。 ○ 明治初期の交通・通信の発達について理解する。 ・関所の廃止や伝馬役・飛脚がなくなったことなども踏まえ、鉄道の敷設や電信や郵便制度の整備について理解する。 ○ 明治初期の習俗の変化について理解する。 ・食事や建物、暦などに西洋文化が取り入れられたことを考察する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【共通①系統性】 時間的・空間的つながりを意識させる。</p> <p>【共通④ 実生活】 明治初期の文化と現在の生活とのつながりを意識させる。</p> <p>【教科Ⅲ】 西洋の思想とのつながりを意識しながら捉えさせる。</p> </div>	<p>イー① (観察、ワークシート記述)</p> <p>エー①、② (ワークシート記述)</p>
<p>3</p>	<p>・資料を他者と読み取っていくことなどから、社会生活にどのような変化が起きたのかについて考察する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時を振り返る。 ○ 明治初期の銀座と江戸時代の浅草を比較し、明治初期の新しい文化に関するものに注目する。 ○ 二人一組となり、気付いた点について挙げ、共有する。 ○ いくつかの組に気付いた点を発表してもらい、クラス全体で共有する。 ○ 殖産興業政策が進む中で、欧米の生活様式が摂取され、我が国の政治・文化に大きな影響を与えたことを理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【共通③言語活動】 二人一組での話し合い、全体での話し合いをさせる。</p> <p>【教科Ⅰ】 伝統や文化を継承する人の思いを受け止めることができる資料を提示し読み取らせる。</p> <p>【教科Ⅲ】 日本の伝統や文化を他国の伝統や文化とのつながりを意識できる資料を提示し読み取らせる。</p> </div>	<p>アー② (観察)</p> <p>イー① (観察、ワークシート記述)</p> <p>ウー①、② (観察、ワークシート記述)</p>

5 展開例 第3時

(1) ねらい

- ・資料を他者と読み取っていくことなどから、社会生活にどのような変化が起きたのかについて考察する。

(2) 展開

	学習活動	○留意点 ◆資料 【評価規準】(評価方法) 研究主題に迫るための手だて
導入	1 前時を振り返り、文明開化と啓蒙主義、社会生活の変化について確認する。	○前時の活動を振り返らせる。 ○これからの活動に、これまでの2時間で理解したことが必要であることを確認させる。
展開	2 明治初期の銀座と江戸時代の浅草を比較し、明治初期の新しい文化に関するものをあげ、ワークシートに記入する。	◆『江戸から東京へ』 p. 58「銀座通煉瓦造鉄道馬車往来図」 p. 28「東都名所 芝居町繁盛の図」 【教科Ⅰ】 資料から、伝統や文化を継承する人の思いを受け止めさせる。
	3 二人一組でペアとなり、気付いた点を共有し、他者の意見もワークシートに記入する。	○他者の意見について、受け入れるようにさせる。 【共通③言語活動】 二人一組で話し合い、その結果をワークシートにまとめさせる。
	4 ペアで出た意見を発表し、学級全体で共有する。	○ペアでは出なかった意見を、ワークシートに記入する。 【ア-②】(観察)
まとめ	5 殖産興業政策が進む中、欧米の生活様式が摂取されたことを理解する。	○生徒から出てきた意見を踏まえつつ、殖産興業政策との関連、欧米の生活様式の摂取について説明する。 【教科Ⅲ】 日本の伝統や文化を他国の伝統や文化とのつながりを意識させる説明を行う。 【イ-①】(観察、ワークシート記述) 【ウ-①、②】(観察、ワークシート記述)
	6 文明開化、社会生活の変化が我が国の政治や文化に大きな影響を与えたことを理解する。	○明治後期の文化の学習に向け関心を高め、次の学習課題をつかめるようにする。

社会 「伝統や文化を広い視野に立って認識・理解するための能力・技能」

		小学校		
		3・4学年	5・6学年	
伝統や文化を広い視野に立って理解・認識するための能力・技能	思考・判断・表現	課題を見だし見通しをもって表現する力	<ul style="list-style-type: none"> ・地域における社会的事象から、学習問題を見いだすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土の産業の様子、歴史と政治及び国際理解に関する社会的事象から学習問題を見いだすことができる。
		特色や意味を表現する力	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・調査したことを比較したり、関連付けたりして、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連を考慮することができる。 ・観察や調査・見学、体験などによって調べたことや考えたことを文章や図などにまとめ、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比較したり、関連付けたり、総合したりして、社会的事象やその意味をより広い視野に立って多面的に捉え、考えることができる。 ・調査、体験などによって調べたことや考えたことを自分の言葉で説明したりすることができる。 ・調べたことや社会的事象の意味について広い視野に立って考えたことを、図や文章などで表現したり、根拠を示しながら説明したりすることができる。 ・社会的事象を多面的に捉え考えることができる。
	資料活用	観察・調査資料を調べる力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題を踏まえて、観察や聞き取り調査を行ったり、図（絵地図）や写真などの資料を活用したりして必要な情報を集めることができる。 ・観察や聞き取り調査を行ったり、図（絵地図）や写真などの資料を活用したりして集めた必要な情報を読み取ることができる。 ・資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題を踏まえて、見学や地図、地球儀、統計、年表、その他の資料を活用したりして、必要な情報を集めることができる。 ・地図、地球儀、統計、年表、その他の資料を活用して調査を行い、集めた必要な情報を読み取ることができる。 ・複数の資料を関連付けて読み取ることができる。（2種類程度） ・資料を多面的に読み取ることができる。
		観察したこと、調査したこと、資料から読み取ったことをまとめる力	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを主な地図記号や八方位などを用いて絵地図や白地図にまとめることができる。 ・観察や調査・見学、体験などによって調べたことや考えたことを適切に図や文章等でまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを白地図や年表にまとめることができる。 ・調査・見学調べたことを年表にまとめることができる。 ・調べたことをレポートなどにまとめることができる。
日本の伝統や文化に関する内容例		<ul style="list-style-type: none"> ・古くから残る建造物 ・古くから残る暮らしに関わる道具、使っていたころの暮らしの様子 ・地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事 ・地域の発展に尽くした先人の具体的事例 ・伝統的な工業などの地場産業の盛んな地域 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本風の文化 ・室町文化 ・江戸時代の文化や学問 ・明治維新 	

に関する系統表」

中学校	高等学校
<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象から課題を見いだすことができる。 ・適切な課題を設定し、その課題を追究する見通しをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的（地理的）事象から課題を見いだすことができる。 ・適切な課題を設定し、その課題を追究する見通しをもつことができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・比較や関連付け、総合などを通して、社会的事象を多面的・多角的に考察し、事実を正確に捉え、公正に判断し考察することができる。 ・調査、体験等で得たことを考察し、適切に整理・処理して、その過程と結果を図や文章等でまとめたことを、自分の言葉で適切に説明することができる。 ・多面的・多角的に考察したことを公正に判断して、その過程や結果を適切に図や文章等で表したり、根拠を明確にして、自分の言葉で適切に説明したりすることができる。 ・社会的事象を多面的・多角的に考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・比較や関連付け、総合などを通して、社会的事象を多面的・多角的に考察し、事実を正確に捉え、公正に判断し考察することができる。 ・調査、体験等で得たことを考察し、適切に整理・処理して、その過程と結果を図や文章等でまとめたことを、自分の解釈を加えて説明することができる。 ・歴史的事象は立場や見方の違いによって複数の解釈が成り立つことに気付き、それぞれの解釈を成り立たせる根拠や論拠を踏まえ、筋道を立てて考えを説明することができる。 ・歴史的事象の推移や変化、事象相互の因果関係を考察して、それぞれの事象が歴史の展開の上で、どのような位置付けや意味をもつのか解釈することができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・課題を踏まえて年表、歴史地図、映像など歴史に関する様々な資料を収集したり、調査を行ったりして有用な情報を適切に選択することができる。 ・年表、歴史地図、映像など歴史に関する様々な資料、調査から集めた有用な情報を読み取ることができる。 ・複数の資料を関連付けて読み取ることができる。（2種類以上） ・資料を多面的・多角的に読み取ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を踏まえて、年表、歴史地図、社会や文化の特色に関する様々な歴史資料などを収集したり、調査を行ったりして有用な情報を適切に選択することができる。 ・年表、歴史地図、社会や文化の特色に関する様々な歴史資料や調査から集めた有用な情報を読み取ることができる。 ・複数の資料を関連付けて読み取ることができる。（2種類以上） ・資料を多面的・多角的に読み取ることができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを図表にまとめることができる。 ・調べたことを自分で観点を考え、年表にまとめることができる。 ・調べたことを自分の言葉で文章にまとめることができる。 ・歴史的な事象を時間的なつながり（時間軸）や空間的なつながり（空間軸）に着目して整理することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを自分の解釈を加えて、図表にまとめることができる。 ・調べたことを自分で観点を考え、年表にまとめることができる。 ・調べたことを自分の解釈を加えて文章にまとめることができる。 ・歴史的な事象を時間的なつながり（時間軸）や空間的なつながり（空間軸）に着目して整理することができる。
<ul style="list-style-type: none"> ・文化の国風化 ・武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化 ・武将や豪商などの生活文化 ・近世の文化 ・近代文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・古墳文化 ・天平文化 ・国風文化 ・鎌倉文化 ・室町文化 ・織豊政権期と江戸時代初期の文化 ・近世の都市や農村漁村における生活や文化 ・近代文化